

こどもが まんなか

# いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信

No.8 令和7年12月26日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室

(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県HPからダウンロードできます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

きらきら☆いわてっこ

いわて幼児教育センターの専門員が先月までに訪問支援した園で見つけた、ワクワク・ドキドキな姿をご紹介します。

## 「遊びは学び 学びは遊び やってみたいが学びの芽」

～保育者の見取りと、望ましい環境構成と援助を考える～

### 様々な体の動きを楽しむサークル遊び

<3歳児>

ホール全体を水辺に見立てています。これを見た子どもたちの中には「バランスを崩して水に落ちないように」「ワニに食べられたりしないように」「石渡りで足を踏み外さないように」とイメージが沸き上がります。

はじめは、こわごわ慎重に目の前一本橋や石渡りに向き合っていた子どもたちでしたが、保育者がワニのお面をつけて「落ちないように渡れるかな！」と雰囲気を盛り上げていくと、どんどん「挑戦者の顔」になっていきました。

そのうちに、あちこちで子どもたちの発想で新たな動きが生まれます。水の中に保育者が置いたイラストのワニを橋の上に置いてみたり、わざと滝にあたって「濡れちゃった～」と友達と笑いあったりする姿もありました。



陸地に見立てた安全地帯に集まって、水辺全体を見渡しながら遊びの導入。ワクワクが沸き上がる瞬間。

水の中にいたワニが橋に上がってきたと見立てて、「先生、ワニ怖いよ」「大丈夫」「私が先に行ってワニやっつけるから」とつむり遊びに発展しました。

滝に見立てたスズランテープでは、なるべく水にあたらないように体を低くしてくぐろうとします。何度か経験するうちに、ほふく前進する子どもが現れ、それを真似たり、先にくぐった子どもが後から来る子どもの手を引っ張って、「もっと頭下げないと滝にあたっちゃう」と声をかけたりする姿が見られました。

### (1) 心身の健康に関する領域「健康」

#### 【内容】(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。

幼児期は身体諸機能が著しく発達する時期であるが、園児は自発的にそのとき発達していく機能を使って活動する傾向があると言われている。そして、その機能を十分に使うことによって更に発達が促されていく。したがって、園児の興味や能力に応じた遊びの中で、自分から十分に体を動かす心地よさを味わうことができるようになりますことが大切である。……中略……

園児の興味の広がりに沿って展開する様々な活動を通して、十分に全身を動かし、活動意欲を満足させる体験を積み重ねることが、身体の調和的な発達を促す上で重要な意味をもつものであることに留意しなければならない

(幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 p225)

### (観察者の目)

幼児期の大きな特徴である「イメージの世界を楽しむ」を大事にした保育者の環境作りが、子どもたちのワクワク・ドキドキをうまく引き出しています。心が動くことが、体の動きを引き出します。

遊び始めのコースだけでも「跳ぶ」「くぐる」「渡る」「這う」の動きを楽しむことができましたが、イメージの世界を広げてごっこ遊びに発展したり、新たな遊具で動きを足したりしていくことができるのも、サークルの面白味です。

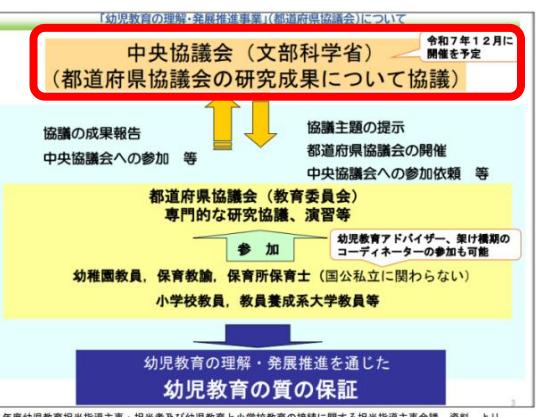
子どもたちと相談しながら、環境の再構成を楽しんでいってほしいです。

## 研修の報告 ~R7.12.4-5 中央協議会~

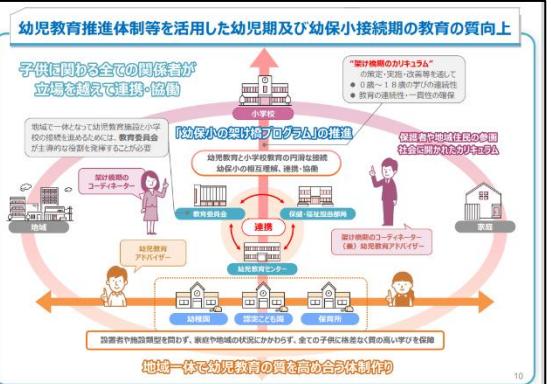
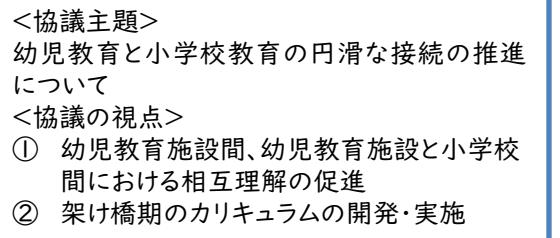
この研究協議会は、各都道府県で共通の協議主題に沿って行われた協議会報告をもとに、文部科学省の主催で行われているものです。令和2年度から、こども家庭庁主催の中央セミナーと共同開催しているものであり、施設類型を問わず多くの参加者が集まりました。本県からもオンラインと参集で10名が参加しました。初日は、文部科学省、こども家庭庁からの行政説明の他、早稲田大学の外山紀子教授による「歩行開始期における発達力スケード」の講演、2自治体の実践発表がありました。2日目は、3つの分科会に分かれ、「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について」2自治体ずつの発表があり、その発表を元に5~6人のグループで協議を深めました。岩手県内と同様に全国各地で幼小接続の取組が実態に合わせて進められており、参加者それぞれが自分の自治体のよさを再認識したり、他自治体から学んだりと、気付きの多い2日間でした。いわて幼児教育センターにおいても、この学びを次年度事業に生かしてまいります。

### 【こんなことが大事だと共通理解しました】

- ・架け橋の取組を今後も続けていくには、「組織」作りが大切。
- ・後戻りしない組織になるためのポイント、制度設計、役割分担を考えること。
- ・5歳と1年生の保育・教育だけが変わればよいのではなく、「切れ目がない」教育を作っていくことが大事。「学校間の連携」は「学びの連続性」であること。



令和7年度幼児教育担当指導主事・担当者及び幼児教育と小学校教育の接続に関する担当指導主事会議 資料 より



## 市町村の取組の紹介～滝沢市幼保小連携研修会～

11月21日に滝沢市教育委員会と滝沢市が主催する研修会が行われました。昨年までに市の「架け橋期のカリキュラム」が作成されており、それをもとに、今年度は、実際に地域ごとに取組を進めることとなっていました。市教委が連携の主体となり、小学校区でグループを決め、進めてきた中での研修会でした。

当日の研修では、幼児教育センターも講義を担当いたしました。講義の他に、市内で交流活動に積極的に取り組んでいる滝沢東小学校区での実践発表が行われました。その後、地区ごとに交流活動の在り方等についての協議が行われました。協議後には、盛岡大学短期大学助教の及川未希生先生に協議の様子について講評いただく等、地域の人材を生かして学び合う雰囲気に包まれていました。



研修者のリフレクションには、「実践発表を聞いて、こんなに身近なところで連携が進んでいることに驚いた。」「連携で大切なことは、お互いのリスペクト、園長・校長・行政のネットワーク」「子供の姿の捉え方やそれぞれが日頃どのようなねらいをもって活動しているのかなど、共有し分かち合っていくことが接続の一歩であることを強く感じた。」「小学校との情報交換会の具体的な進め方がイメージできたので、来年度は計画を実行していきたい」等が記載されており、次年度の見通しをそれぞれにもつことのできた研修会となりました。

よろしければ、各市町村・園の取組の様子をお寄せください。「いわての WAっこ」等を通して、すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現のために、県内の皆さんとの共有財産にしていきましょう。

【担当】いわて幼児教育センター Tel:019-629-6149 Email:DB0003@pref.iwate.jp